

## V. 貿易大学（ハノイ）への教員派遣事業

### 1、 派遣教員

派遣教員	水垣 源太郎	奈良女子大学文学部 准教授
------	--------	---------------

### 2、 派遣期間

平成 23 年 10 月 30 日（日）～11 月 6 日（日） 8 日間

10 月 30 日（日） 関空ーハノイ空港

10 月 31 日（月） 授業準備

11 月 1 日（火）～4 日（金） 授業

11 月 5 日（土） 受講学生の成績評価

11 月 5 日（土）～6 日（日） ハノイー関空

### 3、 事業概要

#### 3-1 講義概要

平成 23 年 10 月 30 日（日）～11 月 6 日（日）の日程で、ベトナム社会主義共和国ハノイ市を訪問し、貿易大学日本語学部において、日本の近代化過程に関する社会学の講義を行った。

大学では、国際課長（Manager of International Affairs）Vu Hoang Nam 氏、日本語学部長（Dean of Faculty of Japanese）Nguyen Van Hao 教授には特別のご配慮をいただいた。また講義の実施および訪問全般にわたって、ベトナム日本人材協力センター（VJCC Hanoi）の Manh Thi Thanh Nga 氏には、資料翻訳および通訳など、きわめて多大な援助を得た。Tam 氏にも多くの助力をいただいた。これらの先生方のご厚意に深く感謝の意を表したい。

#### 3-2 講義内容

（文責：水垣源太郎 准教授）

日本学科における講義は、11 月 1 日（火）～4 日（木）の 4 日間、それぞれ 18:00～20:30 に、「日本の近代化，経済成長と社会生活の変化 *Hiện đại hóa, tăng trưởng kinh tế và những chuyển biến về đời sống xã hội của Nhật Bản*」と題して行った。

受講生は 40 名。講義は日本語で行い、資料は Nga 氏の助力により日越併記で作成した。講義では、明治維新、戦後改革、高度成長の 3 つの局面における近代社会変動の諸相を説明し、受講者が関心をもつ今日の日本の若者文化がそれらを経た低成長期における価値転換の延長上にあることを、映像や統計図表を用いて論じた。

講義の第一日目はまず、自己紹介と講義の概要の説明を行い、導入として講師の個人的体験、1970 年代から 80 年代における外遊びからテレビゲームへという遊びの変化について

論じた。受講生の関心が高い現代日本の若者文化がこの転換点の延長として理解できることを説明し、本講義のテーマである高度経済成長期の社会変動が文化と深くかかわっていることを論じた。

第二日は、映画『三丁目の夕日』を鑑賞した。

第三日前半は、日本の近代化と社会変動過程を国民国家形成、近代資本主義、近代社会形成の3つの側面から捉え、明治維新、戦後改革、高度成長の3局面を通してそれが達成されていくありさまを説明した。とくに、人口集中と過疎化、教育と社会階層、家族形態の変化について具体例を交えながら説明した。

後半は、現在の日本の若者文化を多様化、政治的関心の復権、アマチュアリズム（ノンプロ）の3点において特徴づけた。第一の多様化とはみんなが熱中する文化というものになくなってきていることを、第二は若者が最近政治に関心を持つようになってきたことを、そして第三はプロが作ったものをアレンジして公表する文化が広まっていることを指す。このうちとくにアマチュアリズムを取り上げ、ニコニコ動画と VOCALOID、アニメとコスプレ、コミックマーケット、同人誌（同人雑誌）、同人誌即売会、コミックマーケットなどの具体例をマルチメディア資料によって紹介した。

最終日前半は、前日前半に引き続き、生活水準の上昇と消費生活の変化、少子高齢化の諸側面について、具体例を交えながら説明した。さらに、その帰結として、現在の日本人の意識がおおまかに3つの世代によって異なることを論じた。1960年以前に大人になっていた現在70歳以上の人々、高度経済成長期に少年期、青年期の40代～50代の人々、高度経済成長期に少年期・思春期を迎えた40歳以下の人々である。最後に、受講生たちが大きな関心を寄せている現在の日本の若者文化がこうした背景のもとで形成されてきたことを結論として述べた。後半に、試験を実施して講義を終了した。

クラス ( ) 氏名 ( )

問1 次の(1)～(5)の各記述内容がすべて正しければ○を、誤りが含まれていれば×を、それぞれ【解答欄】に記入しなさい。

(1) 1960年代の高度経済成長は、日本人の暮らしを大きく変化させた。それまでの約1500年の間、日本の都市の人々の生活はほとんど変化しなかった。

(2) 日本の高度経済成長は1973年の石油危機とともに終わり、それ以降、低成長が続いている。それとともに人々の価値観は変化し、人々は生活の質の高さよりも経済的な豊かさを追求するようになった。

(3) 近代化とともに人口が増加するのは世界的な傾向である。

(4) 日本では、近代化とともに第一次産業人口が低下し始めた。

(5) 現在の日本は、第二次産業人口がもっとも多い「脱産業社会」の段階にある。

【解答欄】

(1) ( )

(2) ( )

(3) ( )

(4) ( )

(5) ( )

問2 次の文章は、高度経済成長期に起きる人口移動(都市への人口集中)のメカニズムを説明したものであるが、文の順番を入れ替えてある。話が通るように、(ア)～(オ)の文を並び替えて、【解答欄】に記号を記入しなさい。

(ア) こうして都市の人口集中と地方からの若者の流出と過疎化、高齢化が起きた。こうした傾向は現在でも続いている。

(イ) 一方、若者の働き口がない農村では人手が余っていた。

(ウ) しかし都市で新たに雇われたのは、従来は小さな商店や工場などで働いていた都市生まれの若者であった。そのため、都市の小さな商店や工場では人手不足が起きた。

(エ) そこで都市の商店主や工場主たちは地方の農村から若者を呼び寄せた。

(オ) 第二次世界大戦後、都市では近代的な大工場が建てられるようになった。その結果、新しく雇用が創出された。

【解答欄】

( ) → ( ) → ( ) → ( ) → ( )

問3 映画「Always 三丁目の夕日」は【解答選択肢】(A)～(D)のうち、どの社会を描いたものか。次の文章を参考にして、【解答欄】に記号を記入しなさい。

産業化の初期段階では、冷蔵庫や洗濯機など、ほとんどの人が必要とする「生活必需品」が売れるため、同一の工業製品を大量に生産しなければならない。そこで生産過程の効率化に関わるセクター (sector) に資源と人材が集中する。こうした初期段階の産業化が直接もたらした社会の変化として、雇用労働者の増大、都市化、官僚制組織の普及が挙げられる。この段階の社会を「産業社会」という。

しかし「生活必需品」が社会全体に行き渡って、売れ行きがにぶると、新しい機能やデザイン、低価格といった付加価値によって人々の欲望をあおり、消費を高める必要がある。そこでマーケティング (marketing) や流通過程の効率化に関わるセクターに資源と人材が集中する。この段階の社会を「脱産業社会 (ポスト産業社会)」という。

**【解答選択肢】**

- (A) 産業社会以前
- (B) 産業社会
- (C) 産業社会から脱産業社会への移行期
- (D) 脱産業社会

**【解答欄】**

問4 この授業のなかで、とくにおもしろかったこと、もっと知りたいと思ったことなどについて自由に感想を書きなさい。

(以上)